

**八幡平エリア及び周辺地域
高付加価値なインバウンド観光地づくり
マスタープラン＜令和6年度＞**

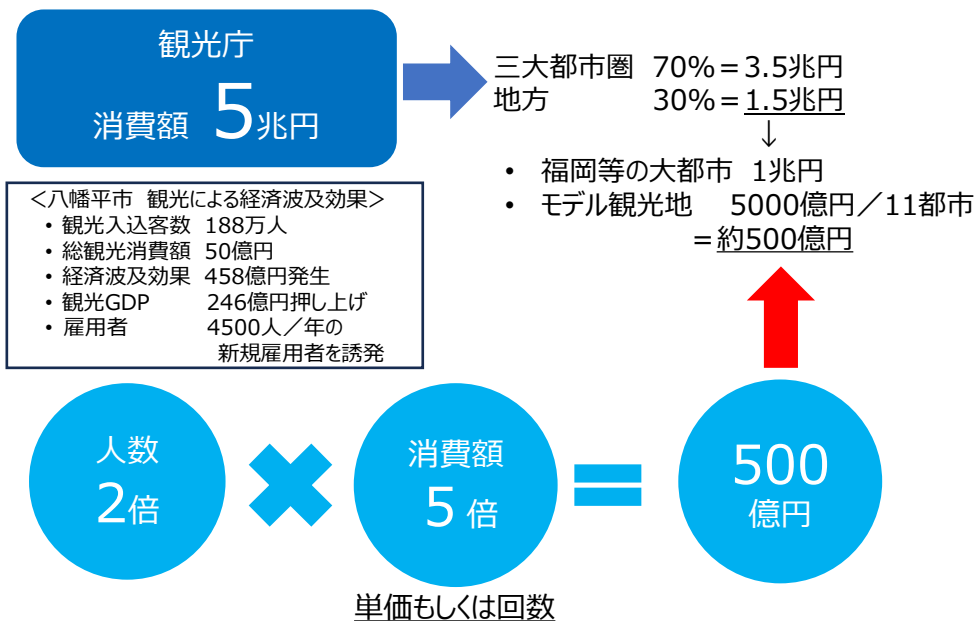
八幡平市観光協議会
事務局 (株)八幡平DMO



事業全体の戦略テーマ（地域が目指す姿）

八幡平エリア及び周辺地域の目標値

国は観光立国推進基本計画（第4次、2023年～2025年度）において、インバウンド回復戦略として消費額5兆円の早期達成という目標を掲げている。八幡平エリアでは、富裕層を対象とした高付加価値化に取り組みことにより、現在の総観光消費額50億円を10倍に拡大することを目標として定める。地域の逸失機会（地域経済の漏れ）は、まずは広域経済圏で受け止めるように地域連携を深め、将来的には各地域が自立的に賄えるように産業立地を促進する。

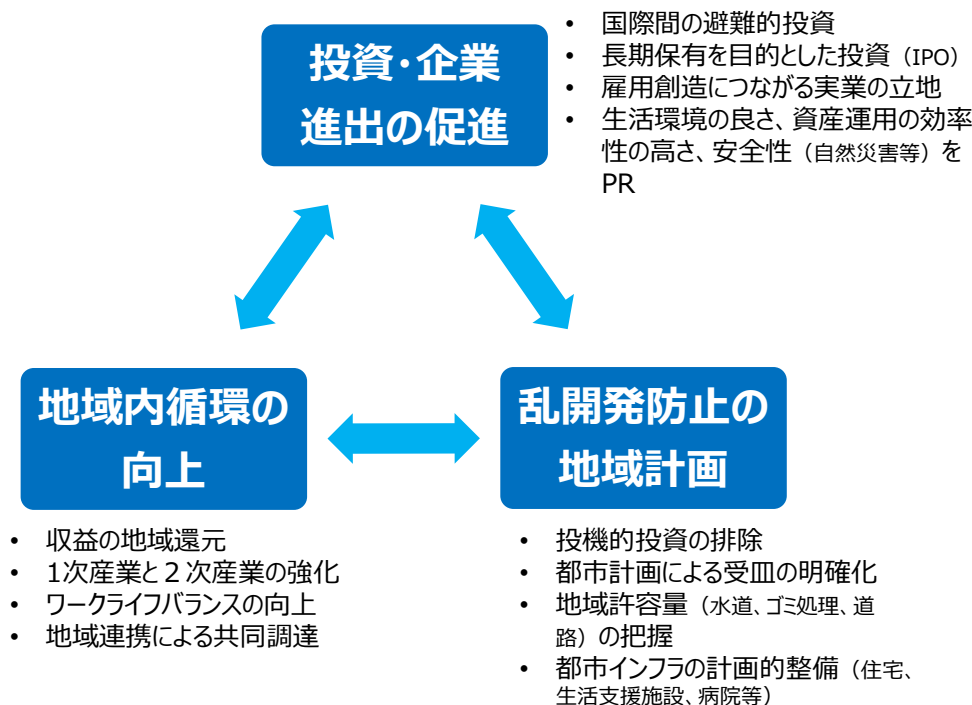


「バケツの底」は、広域連携でまずは受け止め、将来的に各地域の自立性を高める。

例：自家有用償旅客運送制度の活用

持続可能な観光地経営を目指して

持続可能な観光地経営を行うためには、観光による来訪が地域を知るきっかけとなり、北東北への投資・企業進出を促進する経済戦略である必要がある。それにより、地域の生産力を高め、地域内循環を向上させる。ただし、受入を行う地区を明確化し、乱開発を防止する投資誘致策を同時に立案することが肝要である。



■ コアバリューの精査

コアバリューの再設定

より特性を表現するために八幡平エリア及び周辺地域のコアバリューを以下に再設定。
北東北の自然環境と文化をコアバリューとして観光産業を推進させ、これからも保全・維持していく。

八幡平エリア及び周辺地域におけるコアバリュー

R5年 設定コアバリュー

ケ

©八幡平エリア
「日常」という非日常の体験

八幡平エリア及び周辺地域には「ブランド力」という「魔法」はない。
需要は創造するものである。

日常生活のなかで、住まう人々がどのようにこの地域がもつ「自然」や「文化」を楽しんできたか。その表れである地域が継承してきた「ケ」は、地域外の、特にラグジュアリー層から見ると非日常＝「ハレ」であり、ハレとなる地域のケの文化こそが八幡平エリア及び周辺地域のコアバリュー。

高付加価値化を基本としながら、「ケ」の発掘・開発と表現手段を通じてエリアをブランディングしていく。

しかし、重要なことは「収益のエンジン」をつくること。

R6年 コアバリュー再設定

Real Japan 「ケ」 踏み荒らされていない日本

息づく
自然

(活) 山

パウダー
スノー

十和田八幡平国立公園

八幡平エリア及び周辺地域は「踏み荒らされていない日本」という強いウリをもち、中でも「冬・雪」は直接海外へ販売可能な競争力を有している。

■ マーケットイン視点でのウリ精査と販売戦略

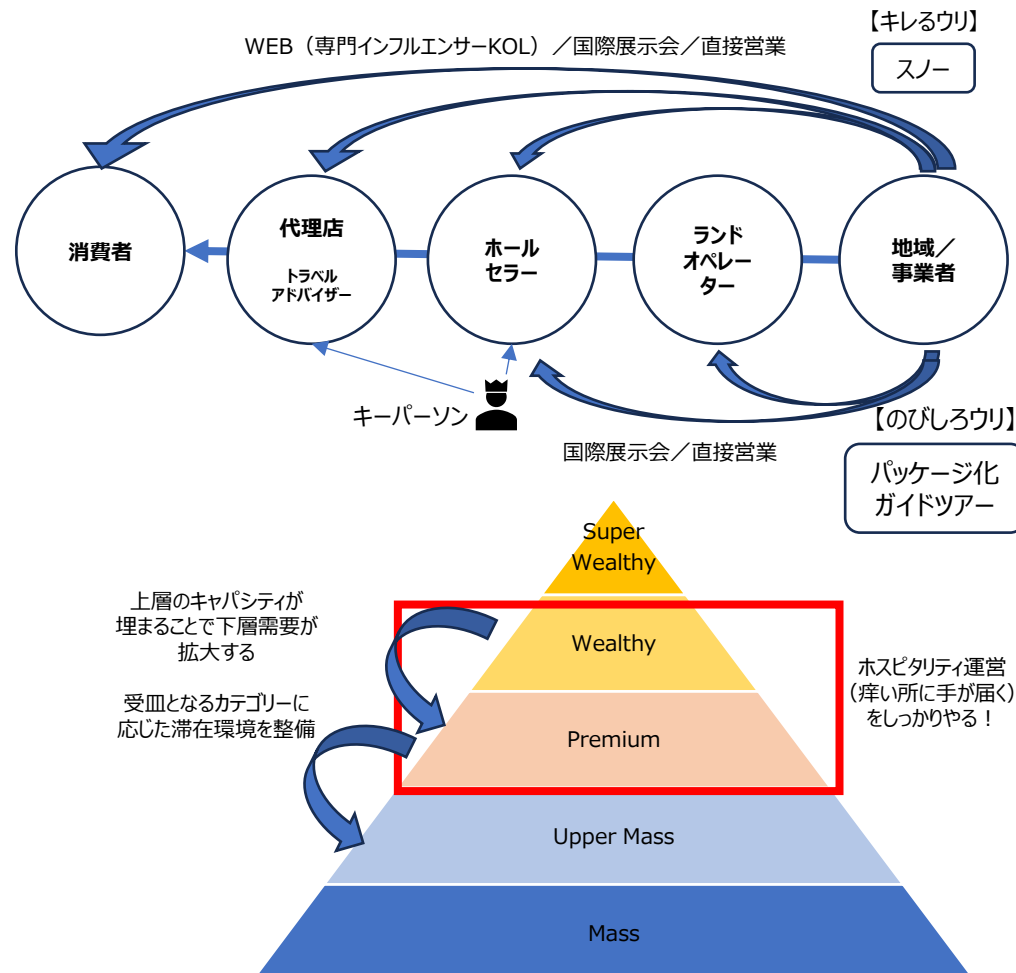
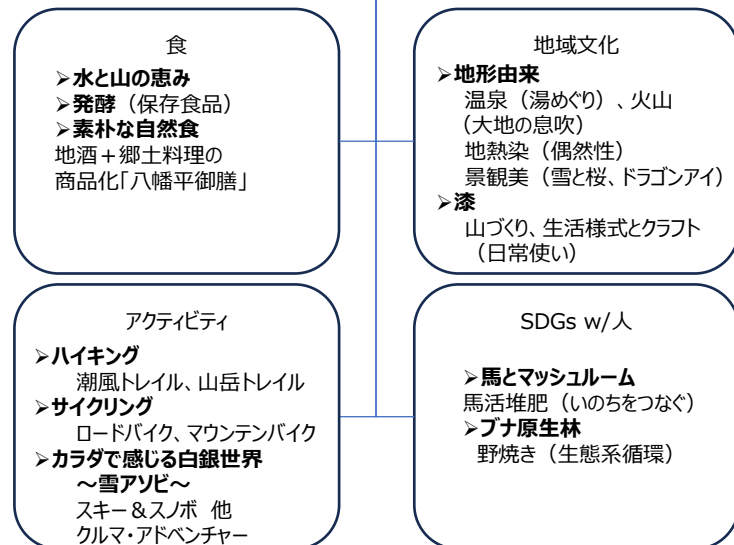
地域全体に恩恵をもたらす高付加価値インバウンド消費へ

八幡平エリア及び周辺地域は「踏み荒らされていない日本」という強いウリをもち、中でも「冬・雪」は直接海外へ販売可能な競争力を有している。のびしろが期待されるウリは、ガイドツアー等の組立により国内外のランドオペレーター等を通じて販売する。上層の許容量が下層へあふれ出すことにより、高付加価値インバウンド消費の恩恵が地域全体に滲みわたる地域戦略を構築する。

キレルウリ Area of Competitive & Unique Strength



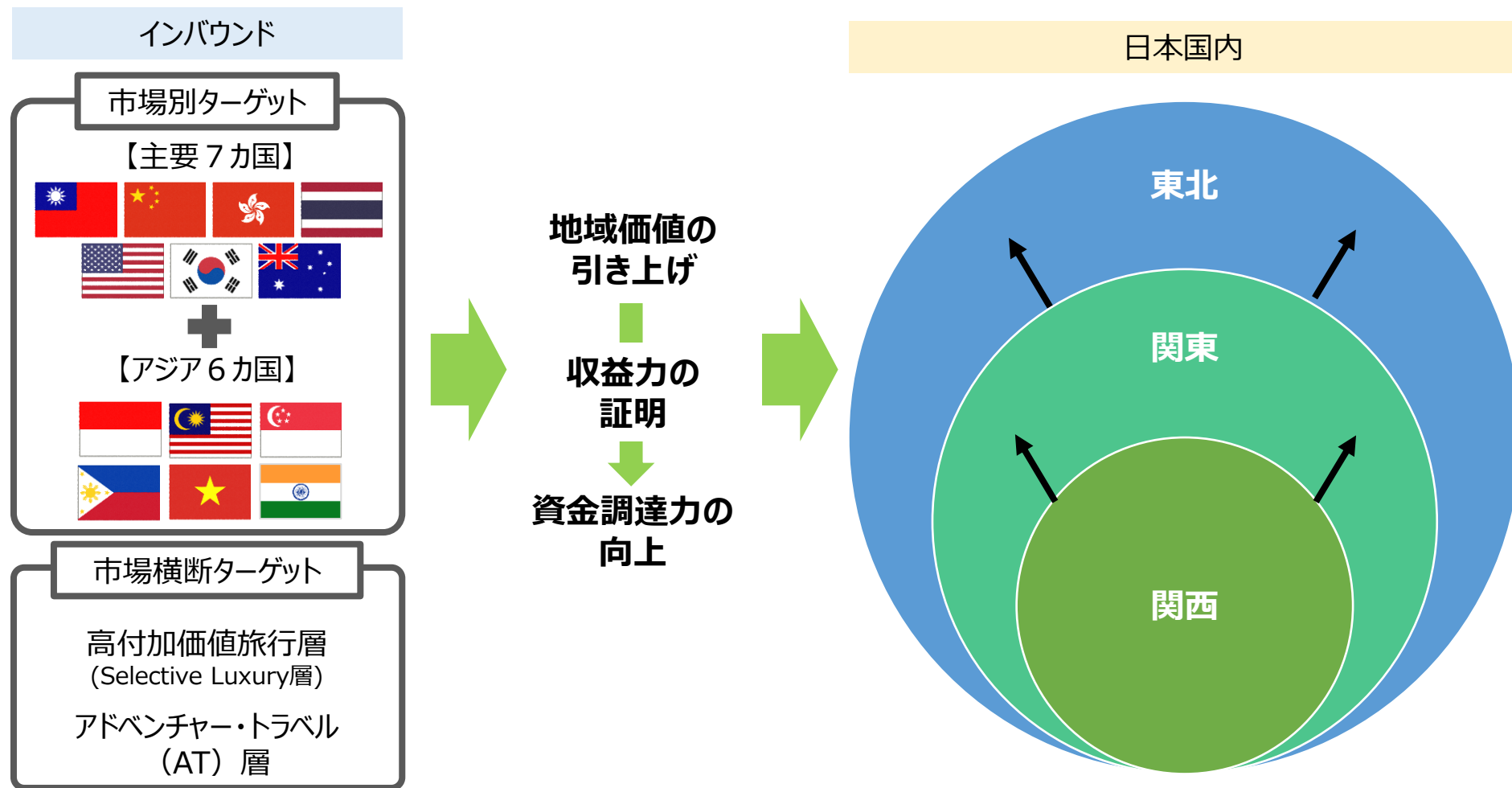
のびしろウリ Attraction



誘客ターゲットの設定

インバウンド誘客とその効果による市場の拡大

インバウンド市場の取り込みにより、地域観光関連市場を拡大し、国内（関東及び関西）の集客力を強め、安定的な稼働と消費機会を高める。



八幡平エリア及び周辺地域のストラテジック・プランニングの考え方

ターゲットのウォンツに合わせた観光コンテンツ（ベネフィット）の最適化

八幡平エリア及び周辺地域の観光コンテンツ（商品）が、ターゲットのウォンツに強く紐づくベネフィットを提供するため、旅行者サイドとコンテンツサイドそれぞれの各項目を変化に合わせ最適化させていく。

旅行者サイド

観光コンテンツサイド

社会環境/自然環境

社会の変化、自然の変化、景気動向の変化、その他情勢の変化や法整備等

生活者

対象となる市場（国）やセグメントを含む、母集団。社会・自然環境の影響を受け変化する。

ターゲット

生活者の中で、当エリアがターゲットとして設定する一団。市場横断的には、高付加価値旅行層（Selective Luxury層）、アドベンチャートラベル層を主なターゲットとして設定。市場別では、台湾/中国/香港/タイ/アメリカ/韓国/オーストラリアの7カ国に加え、シンガポール/インドネシア/マレーシア/インド/フィリピン/ベトナムの6カ国。訪日リピーター。

ターゲットのウォンツ

- （当えりあを訪れることでターゲットが満たしたいシンボリックなウォンツ）※一例
- ・ 極上の雪質でのスノーアクティビティや豊かな自然を生かしたアクティビティを体験したい
 - ・ ここでしか見られないような絶景を体験したい
 - ・ 山や森、活火山での体験を通じて地球の息吹を感じたい
 - ・ 桜など、日本らしい草花を鑑賞したい
 - ・ 季節がもたらす自然の変化を楽しみたい
 - ・ 地域のオリジナリティある食材を活用した質の高い料理を楽しみたい
 - ・ 発酵食や郷土料理など、地方の暮らしと知恵を体験したい
 - ・ 自然と共存する暮らしを体験したい
 - ・ 芸能や風俗など、地域独自の文化を体験したい
 - ・ 空間や時間に余裕のある滞在を実現したい
 - ・ まだ知られていない地方を訪れたい
 - ・ 過剰な刺激・ストレス・多忙な日常からの解放

※安全・安心など、体験を行う上で求められるベーシックな項目は各商品で備える

オケージョン

1週間以上滞在する訪日旅行時

商品属性（ベネフィットの提供源）

- ・ 十和田八幡平国立公園
- ・ 岩手山を中心とした山を生活の一部としてきた生活文化やアニミズム
- ・ 湿度が少なく細やかな結晶の雪室
- ・ 職人が毎晩仕上げる一級のグレンデ品質
- ・ 冷涼であり寒暖差の大きい気候
- ・ 古くからの伝統を受継ぎ守ってきた純朴で温かい地域住民
- ・ 上質な滞在を可能にする宿泊・飲食サービス施設
- ・ 日々価値を体験してきた信頼できるガイド、職人、案内人などの人材

提供するベネフィット

- （体験してもらうことで商品がターゲットにもたらすもの。ウォンツと紐づく）※一例
- ・ パウダーの粒度を細かさで上回る、アスピリンスノーを、バックカントリー/整備されたグレンデ/管理された森と牧野などで存分に体験できる
 - ・ この地域の自然が築く刹那的な絶景をベストタイミングで特等席から鑑賞できる
 - ・ 日本でも限られた地域でしか鑑賞できない桜と雪を必ず体験できる
 - ・ 地球の息吹を、身体全体で感じられる
 - ・ この地域特有の伝統芸能・文化をプライベートな空間で占有して堪能できる
 - ・ マタギ文化という、北東北にしかないアニミズムを深く体験することができる
 - ・ 他では実施されていない特別な「割り水体験」を希少な蔵元の杜氏が案内する

商品＝ウリ

当エリアならではの、自然/食文化/精神文化/工芸/アクティビティとその提供に関わる「人」
※個別商品は別記のリスト参照

研究・商品開発

地域内の協議会や団体、民間事業者、交通事業者、住民、学校、金融、自治体を中心となりつつも、国内外の協力を得ながら既存・新規商品を整備。

商品・商品情報の流通経路（販売チャネル・PRチャネル）

ターゲットへリーチする、「商品」「商品情報」の流通経路。BtoBのチャネルとしてはOTA、旅行博、商談会、セミナーやイベント、旅行会社社招請を。BtoCのチャネルとしてはメディア、会員組織、WEB・SNSなどを活用

域内における「ウリ」別のゾーン形成

八幡平エリア ゾーンマップ

安比高原エリアを中心に、食文化・伝統の文化ゾーンと、グリーン・スノーアクティビティが衛星的に存在するゾーン。

八幡平市は、岩手県北西部に位置する。市の南境に岩手山がそびえ、中央部の西森山と前森山の北側山麓には安比高原が広がる。西部地域にはこのエリアのコアバリューの源泉となる十和田八幡平国立公園をはじめとする奥羽山脈の山々が南北に連なる。東は二戸市、一戸町、岩手町、南は盛岡市、滝沢市、雫石町、西は秋田県仙北市・鹿角市、北は青森県田子町と接している。北東北3県のほぼ中心にある。

①安比高原エリア

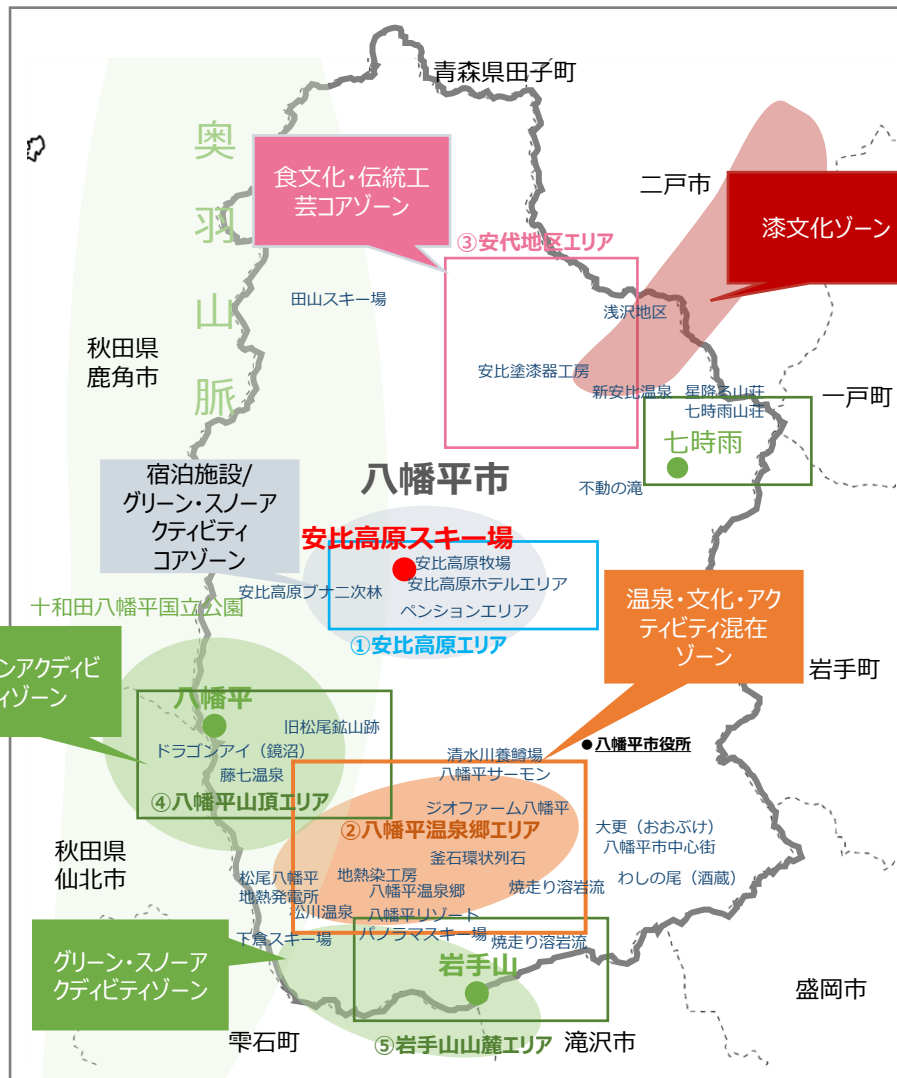
宿泊施設/グリーン・スノーアクティビティコアゾーン

八幡平エリアの宿泊機能及びスノーアクティビティの核であり、年間を通じてエリア内で最も多くの流入があるゾーン。

②八幡平温泉郷エリア

温泉・伝統・食文化・グリーン・スノーアクティビティゾーン

地熱発電や温泉など、地球の鼓動を感じられるスポットが集積している西側、伝統文化や食文化が集積している東側が混在するゾーン。



③安代地区エリア

食文化・伝統工芸コアゾーン

漆文化ゾーン

旧安代町には、食文化や伝統工芸の技術などが集まっている。国産漆のおよそ7割のシェアを誇る岩手県。そのほとんどがこのエリアで採集され、漆塗の工房も複数ある。

④八幡平山頂エリア

グリーンアクティビティゾーン

国立公園であり、自然環境に恵まれハイキング・トレッキングに人気がある。春には雪の回廊（アスピーテライン）、晩春には雪解けと芽吹き織りなす刹那的景観、秋は色鮮やかな紅葉が大きなコンテンツとなっているゾーン。

⑤岩手山山麓エリア

グリーン・スノーアクティビティゾーン

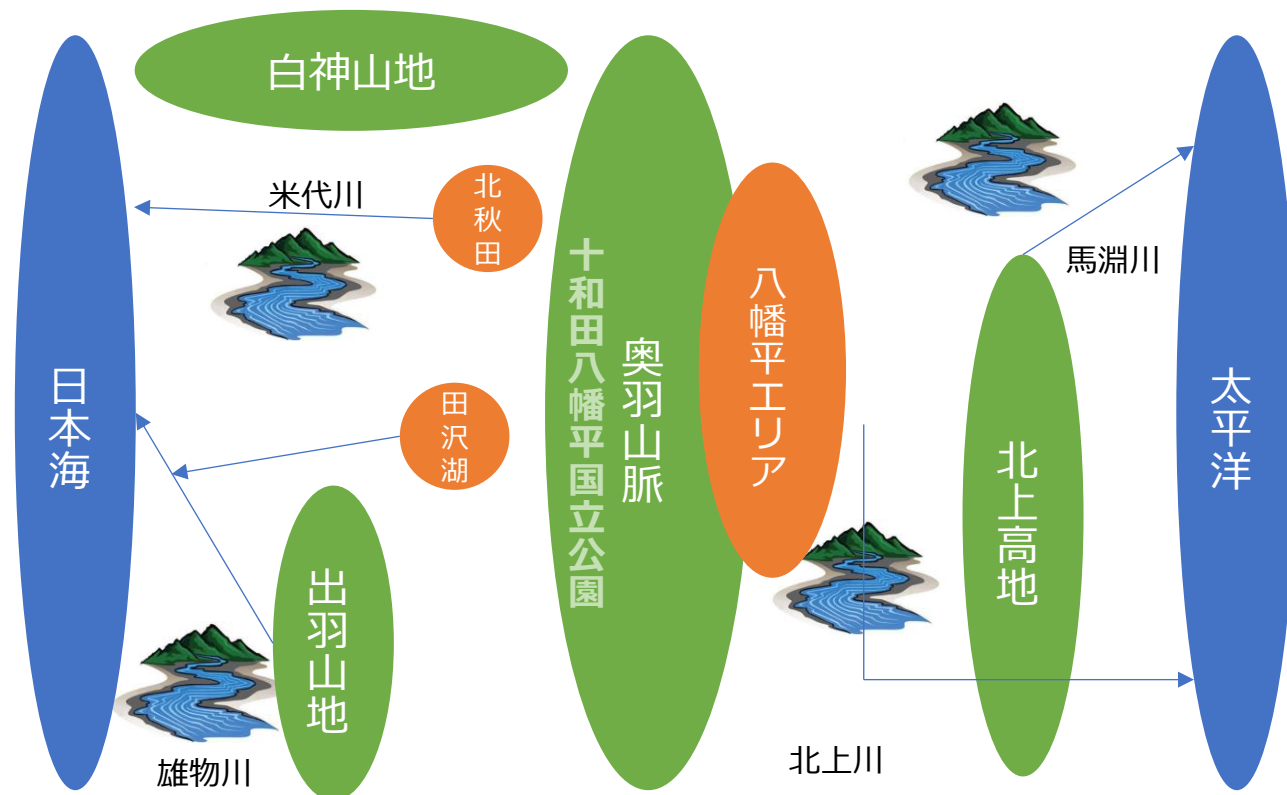
南部片富士とも言われる県内最高峰の岩手山を中心に、山麓の豊かな自然がコンテンツとなっているゾーン。

観光振興事業の促進による資源保全と維持

自然環境保全のために八幡平エリア及び周辺地域でアドベンチャーツーリズムを展開する意義

アドベンチャーツーリズムは、八幡平エリア及び周辺地域の主要なウリである「自然」を活用した旅行形態である。自然の利用を有償化することは、自然環境の保全と維持に経済力をまわすことになり、持続可能な地域づくりに貢献する。

十和田八幡平国立公園を含む奥羽山脈から太平洋側と日本海側の平野部に向けて川が流れ出している。山の自然を守るとは平野部と沿岸部の自然と生活資源を守ることにつながる。八幡平エリア及び周辺地域の山間部は「活きた山」である。地域資源として、豊かな樹木や花々のほか、温泉、食材、漆などを生み出している。「山をつくる」ことは、当該地域の素材を資源へ変える基礎であり、アドベンチャーツーリズムの収益性を活用して地域の基礎である自然環境を保全・維持していくことが重要である。



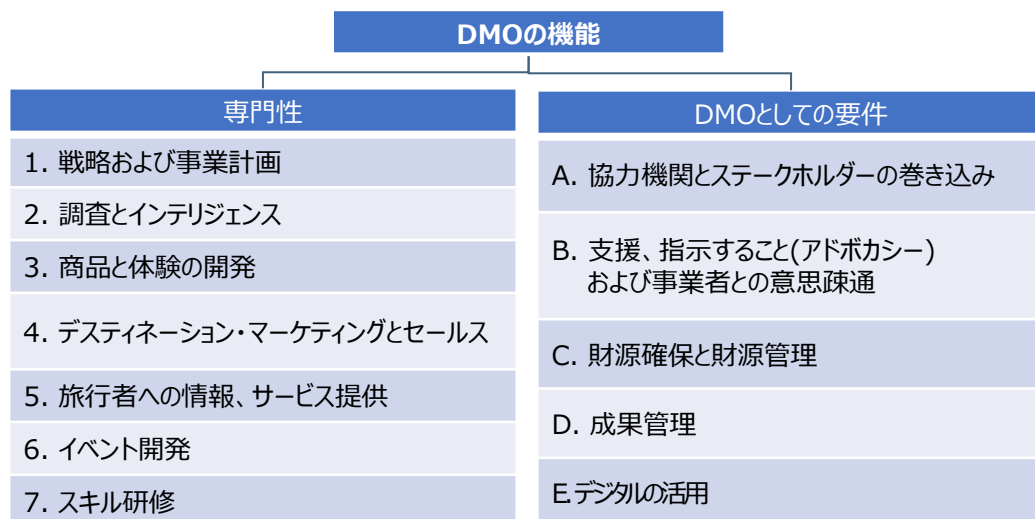
新生DMOに求められる機能の見直しと課題

地域一帯で取り組む「（仮称）ないりく基金」の設立を目指す

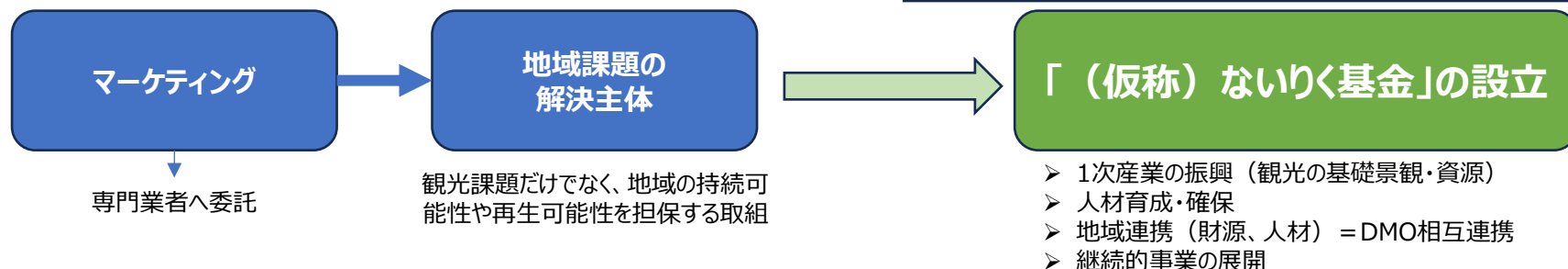
- 八幡平DMOは、6年間の活動を経て当初の目的達成が十分でなかったことから、八幡平市の観光関連団体との役割・機能分担を再整理し、新たな体制構築に取り組んでいる。DMOを取り巻く世界的状況を調査し、今後の観光産業振興に求められる役割を調査した。
- 八幡平市において、DMO機能の再編にはインバウンド誘客など外向きの施策と同時に地域内の地盤固めを行う必要がある。その中で、ガバナンス体制とアドボカシー体制が最優先である。しかし、個々のDMOでは財源的及び人材的に限りがあるため、八幡平エリア及び周辺地域が一体的に取り組む「（仮称）ないりく基金」により成果を高めることが求められる。
- DMO改編とあわせて、道の駅・ふるさと納税などの公益的事業を民間発想で展開する地域課題解決会社の発足と稼働が大いに期待される。

DMO機能をめぐる国際トレンド

八幡平市における新生DMOが取り組むべき8施策



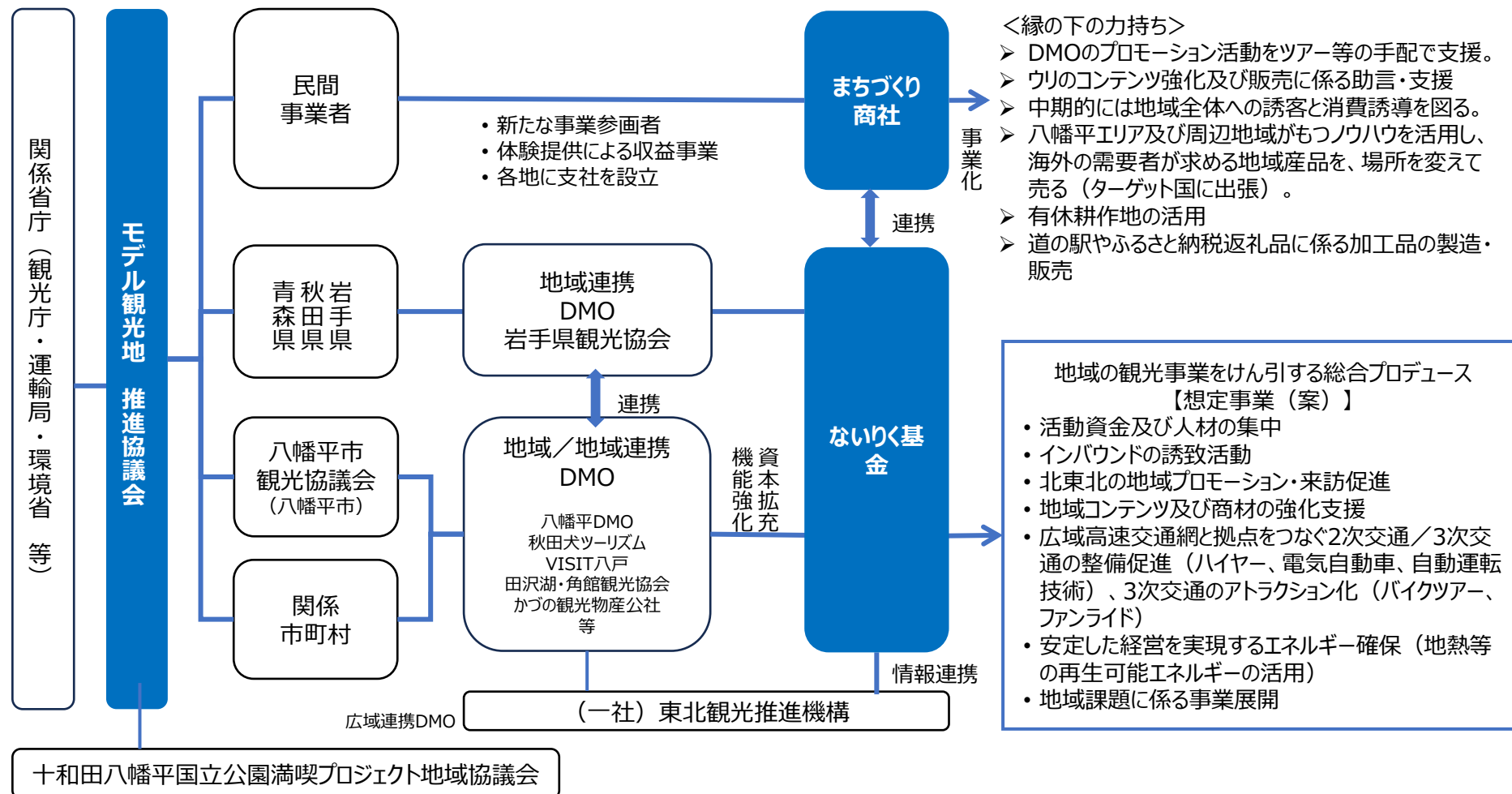
1. ガバナンス：戦略および事業計画と合意形成
2. アドボカシー：支援・指示および意思疎通
3. 財源、資金繰り：財源確保と財源管理（補助金、行政交付金からの脱却＝継続性・迅速性へ）
4. 組織体制：成果管理
5. マーケティング／セールス機能：デスティネーション・マーケティングとセールス
6. 研修機能：スキル研修
7. クライシスマネジメント（観光危機管理）
8. サステナビリティ



「高付加価値インバウンド観光地づくり」の実施体制と将来構想

事業主体及び協議会

インバウンド誘致・拡大支援に係る公的主体である八幡平エリア及び周辺地域のDMO等で組成する「ないりく基金（仮称）」と、事業展開に係る事業主体である「まちづくり商社」の有機的連携により、北東北の力を結集して投資誘致を図り、基幹産業として観光関連産業の拡充（労働環境の改善、地域への収益還元）を推進する。



3.【八幡平エリア及び周辺地域】の地域振興の展望

第8章 2025年度のロードマップ°

